

【事業レポート】おでかけアリオス三和プロジェクト・三和小学校での3年間（後編）

2019.3.2

ピアニスト・田村緑さんが、2016年から3年間にわたりいわき市三和（みわ）地区を訪れ、三和小学校はじめ、三和のあちこちでコンサートやワークショップを行いながら地域の皆さんと交流してきた「おでかけアリオス・三和プロジェクト」。この3年間のとりくみについて紹介する連載の2回目をお届けします。

→リンク：おでかけアリオス三和プロジェクト・三和小学校での3年間（前編）



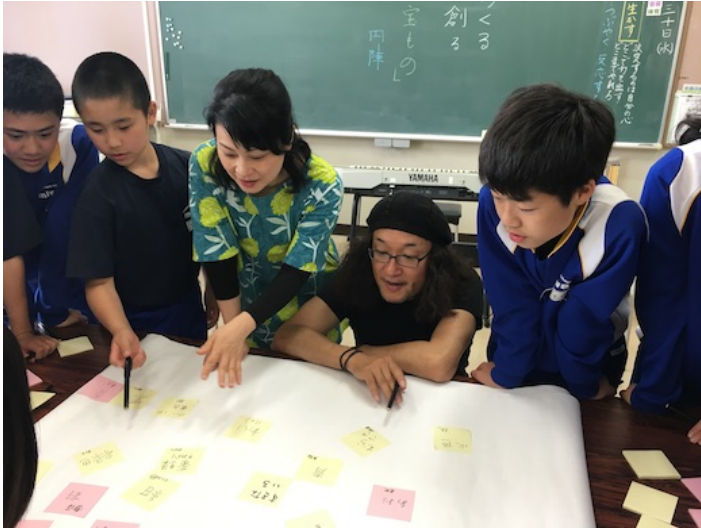
文：前田優子（いわきアリオス 企画制作課）

写真：田子和司、いわきアリオス（※）

三和小学校での「おでかけアリオス」、3年目のテーマは「創作」。6年生12名と、8ヶ月に渡る実に濃密な時間を過ごしました。

毎年10月に行われる学校行事「学習発表会」で、6年生は例年「劇」を上演するとのこと。「6年生になったら自分たちも劇をやるんだ！」と気合が入ってるだけでなく、観に来られる保護者や来賓の方も、楽しみにしているとか……というわけで決まりました、3年目は「6年生と劇づくり！」です！

1年目に「聞く耳を開く、音を心に住まわす」をテーマにたくさんのピアノ曲を鑑賞し、2年目はさまざまなジャンルの音楽にふれたり、即興演奏や美術、言葉を紡ぐなど、「表現」することや「みんなで1つの作品を創る」ことを体験した子どもたち。過去2年間の経験を活かして、脚本から、音楽や美術、上演までのすべてを、6年生と田村緑さん、渡辺亮さん（パーカッショニスト・美術家）とで1から手がけることになりました。



※

物語の原案づくり、ストーリーの大まかな展開をワークショップ形式でおこなった後は、基本的にその後の脚本づくりは6年生と担任の増岡先生に託すことになりました。これは、想像以上に難航し、2学期になってもなかなかまとまらず、やきもきする日々が続きました。増岡先生は、けして先回りして与えることをせず、子どもたちの中から生まれてくるものを待ち、1つひとつを丁寧に拾い上げ、物語をまとめていきました。その辛抱強さ（あるいは頑固さ（笑））は、子どもたちへの信頼、愛情以外の何ものでもないな、と思いました。緑さん、亮さん、私

たちアリオススタッフも、応援に徹することにしました。結果、12人の力で物語を形にできたという実感をもてたことで、子どもたちには「最後までやり遂げられる」という大きな自信が芽生えたのではないかと思います。

劇中で演奏する音楽は、緑さんと亮さんとワークショップ形式で共同制作しました。



自由に音を組み合わせて作ったいくつものモチーフを構成し、3つの宝物のテーマなどの劇中曲を作曲したり、物語の1場面である三和の深い森とそこに棲む妖怪たちを、パーカッションを駆使して音だけで表現したり。



本番の3日前、舞台の背景幕に、みんなの成長と未来をあらわす1本の大きな樹を、全員で筆入れして描きあげました。



※

こうして正真正銘、世界でただ1つの冒険ファンタジー「The Three Treasures～3つの宝を探しに～」ができあがりました！

お母さんにしかられて家を飛び出した女の子・翼と、同級生の男の子・葵が、魔術師によって奪われてしまった記憶を取り戻すため、「3つの宝物」を探す旅に出る... という物語のなかには、前年の「いわき・わくわく・仕事塾」で、大工の鈴木さんに話を聞いた、豊かな三和の森や、永井地区の長徳寺さんに鎮座されていた「鼻取り地蔵」さんや、大木さんが話してくださった森に棲む妖怪たちがでてきます。





そして、緑さんと亮さんとのワークショップでみんなと一緒に奏で、踊ったあの曲も！



コミカルなシーンあり、ちょっぴりほろっとくるエピソードありの、30分を超える大作になってしまいましたが、練習の成果を発揮して最後までやりきった6年生に、集った人々は惜しみない拍手を送っていました。

1月の「音楽室コンサートスペシャル」をもって、三和小学校での3年間のプログラムが終わりました。

3年という期間はあっという間のようであってもやはり長く、子どもたちの心身の成長過程において大切な3年間に関わったことになります。子どもたちにとって、緑さん、亮さんと過ごした時間はどんなものだったのでしょうか。

終了後、6年生全員に「みなさんにとって「音楽」ってなんだと思いますか？」という質問をしたところ、興味深い答えをたくさん、返してくれました。



私にとって音楽は、癒してくれたり、想像力をはたらかせてくれるもの
 自分自身が聞く音楽や、自分からやる音楽が、僕の感じる音楽
 身近にあって、誰もが知っているもの。なくてはならないもの
 聞いていて、楽しくなったりいろんな感情になったりするもの
 人生にとって一番大切なものであり、一部でもあると思う
 色々な人と楽しめるようにしてくれるための、なくてはならないもの。私たち6年生には大切なもの

自分の気持ちを動かすものだったり、何かに本気でとりくむきっかけのようなもの
 自分のお気に入りを見つけることで、世界が広がり、いろんな感情を、見つけ出せるもの
 人と心を通わせてみんなで楽しむこと
 人生にとって大切なもの

大人たちから与えられたものを単に受けとるのではなく、自分が感じたことを表現し、仲間が表現するものを受け止め、世界をともにつくっていく喜びを味わってくれていたんだなということが感じられ、とても嬉しく思いました。

3週間後には三和小学校を卒業する、6年生のみなさん。

ともに過ごした時間が、いつの日もみなさんの心を支え励ましてくれるものであるなら、これに勝る喜びはありません。